

musbun 代表 鈴村萌芽さん

学生と福祉体験のマッチングサイトを開設  
福祉人材不足の課題解決を目指して起業

## なでしこ力



鈴村 萌芽さん

椋山女学園大学在学中の鈴村萌芽（すずむら・もえみ）さんが代表をつとめる musbun（中村区）。事業の柱は「学生と福祉体験のマッチングサイト」だ。このエリアの福祉事業所の「求人」でなく「福祉体験」の情報を発信し、学生に幅広い福祉体験の機会を提供。活動支援、採用支援、講演活動にも活動を広げ、「福祉人材不足の解消」や「地域共生社会の実現」を目指す。

代表の鈴村さんは大学2年生の時、福祉ボランティアを体験。福祉の魅力やスタッフの温かさに感動すると同時に福祉現場の人手不足の深刻さを知った。「多くの学生に福祉の魅力を伝え、福祉体験をしてくれば、福祉に興味を持つ学生を増やすことができ、人材不足などの課題解決にもつながる」と考え起業を決意。大学在学中の2021年に musbun を立ち上げた。

musbun は、これまでにないビジネスモデルで福祉課題に取り組んでおり、いわゆる「大学ベンチャー」とは一線を画する。「名古屋大学 Tongali ビジネスコンテスト」の優秀賞受賞を皮切りに、「日経ソーシャルビジネスコンテスト」や「経済産業省 JHeC」のファイナリストにも選出され、その後も様々な受賞を重ねている。

現在、musbun で行っているのは、「活躍支援」「採用支援」「高校・大学・企業などでの授業や講演」「地域交流イベントの取り組み」。加えて官公署とも連携を進め CSR や SDGs の取り組み支援も行っている。現在は大府市と豊田市と連携して福祉問題などに取り組んでいる。

musbun の仕事で柱になるのは「活躍支援」で、学生と福祉体験のマッチングサイトの運営である。特徴は、「求人」でなく「福祉体験」の情報を提供していること。一般的な学生にとって福祉の仕事は見えづらく、福祉ボランティアならほとんどが車いすなどの介助などで、敷居が高く感じることが多い。そこで学生が得意と感ずることや興味のある福祉体験（施設利用者とのゲーム参加、カフェの手伝い、オンライン交流など）を中心に情報を提供して、福祉に対する垣根を低くした。

musbun に登録している学生は約700人。そのうち約半分は福祉を学ぶ学生で、他は福祉を専攻しているわけではないが musbun を通じて福祉に関心を持ったユーザーである。学生が musbun に登録すると（登録料無料）、サイトは使い放題となる。

学生は、サイト上の福祉事業所情報（募集中のボランティアや施設や仕事の情報）から選択し、多彩な福祉体験ができる。musbun のサイトを通して施設見学やオンライン相談ができ、希望すれば施設からのスカウトを受けられるオ